

2013年度日本神経学会代議員選挙について（公示）

日本神経学会は、日本神経学会代議員選出細則（平成22年5月19日制定、以下「細則」といいます）および日本神経学会代議員選出要項（平成22年10月1日選挙管理委員会制定（平成24年10月1日改正）、以下「要項」といいます。）の規定に基づき、2013年6月学術大会終了後から2015年5月学術大会終了までを任期（2年）とする代議員を選出するため、選挙を実施しますのでお知らせします。

細則および要項は、ホームページ「学会概要」の「会則・規則」のページに掲載してありますのでご確認ください。

今回の選挙は、要項第4条別表の支部選挙区ごとに実施します。代議員に選出されるためには現職代議員も含めて所属する支部選挙区から立候補することが必要です。立候補される会員は、次の要領で手続きを行ってください。

1 立候補について

(1) 被選挙人（立候補）資格は、次のとおりです。

- ① 日本神経学会の正会員であること。
- ② 2013年6月末において年齢が64歳以下であること。
- ③ 2012年9月30日現在で会費を完納していること。
- ④ 2012年9月30日現在で10年以上の正会員歴を有すること。
- ⑤ 業績として5編以上の学術論文（和文及び英文の原著または総説）を有すること。発表時期は問いません。

(2) 立候補手続き

① 代議員立候補届出書の提出

- ・代議員立候補届出書は、要項第10条で定めている書式によります（別紙書式1）。
- ・日本神経学会選挙管理委員会にて、日本神経学会事務局に郵便で提出してください。
代議員立候補届出書は、封筒の表に「立候補届出書在中」と朱書し、配達証明のある郵送方法でお送りください。

提出先は、次のとおりです。

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-21 一丸ビル
日本神経学会事務局

- ・なお、別紙書式1は、学会ホームページの会員専用ページ掲載の様式をご利用ください。
（ホームページは、トップページの「代議員選挙に関するお知らせ」バナーからアクセスしてください。

② 推薦書の提出

- ・現職代議員以外の会員が立候補される場合は、同じ支部に所属する現職代議員1名の推薦が必要です（細則第13条第3項）。
- ・現職代議員が推薦できる立候補者は、3名までです（細則第13条第4項）。
- ・現職代議員は、推薦書の提出は必要ありません。
- ・推薦書の書式は、要項第10条で定めています（別紙書式2）。推薦書は、代議員立候補届出書に添付して提出してください。

なお、別紙書式2は、学会ホームページの会員専用ページ掲載の様式をご利用ください。

（ホームページは、トップページの「代議員選挙に関するお知らせ」バナーからアクセスしてください。

③ 留意事項

立候補届出書を提出される場合は、記載事項不備等の理由で無効となる場合があります。具体的には、要項第13条に規定されていますので、ご確認ください。

(3) 立候補届出書および立候補取り下げ届の受理通知

選挙管理委員会は、立候補届出書または立候補取り下げ届を受理したときは、概ね1週間以内に届くように文書で通知(郵送)します。立候補届出書を提出された会員は、受理した旨の通知が届かない場合、選挙管理委員会(日本神経学会事務局)にお問い合わせください。

(4) 立候補届出書提出締め切り

2012年11月20日(火)(消印有効)

(5) 所属する支部選挙区を異動した場合の立候補について

立候補や投票ができるのは、2012年9月30日現在所属する支部選挙区です。ただし、10月1日以降に支部選挙区を越えて異動した場合、以下の手続きをとることにより立候補届出書は受理されます。

① 現職代議員の場合

立候補届出書および支部選挙区異動届出書(別紙書式4)を立候補届出書締切日(2012年11月20日)までに提出してください(消印有効)。

なお、立候補届出書提出締切日以降、支部選挙区を異動した場合は、支部選挙区異動届出書を2012年12月7日(金)までに提出してください(必着)。

② 新たに立候補しようとする会員の場合

異動後の支部選挙区の代議員の推薦書を添えて、立候補届出書と支部選挙区異動届出書を立候補締切日(2012年11月20日)までに提出してください(消印有効)。

なお、立候補届出書提出締切日以降、支部選挙区を異動した場合は、異動後の支部選挙区の代議員の推薦書と立候補届出書および支部選挙区異動届出書を2012年12月7日(金)までに提出してください(必着)。

③ 立候補届出書の無効

立候補届出書を提出した者が、立候補届出書審査日(2012年12月8日)以降、支部選挙区を異動したときは、その立候補届出書は無効となりますのでご注意ください。

別紙書式4は、学会ホームページの会員専用ページ掲載の様式をご利用ください。

(ホームページは、トップページの「代議員選挙に関するお知らせ」バナーからアクセスしてください。

2 投票権者

代議員選挙で投票できる会員は、2012年9月30日現在、日本国内に居住している名誉会員、功労会員および会費を完納している正会員です。

3 選挙日程

- ① 2012年12月8日(土)立候補届出書審査
- ② 2013年1月10日(木)代議員立候補者公示
- ③ 2013年1月16日(水)代議員選挙投票用紙および立候補者名簿発送
- ④ 2013年2月15日(金)投票締め切り(消印有効)
- ⑤ 2013年2月23日(土)開票・代議員当選者決定
- ⑥ 2013年2月25日(月)代議員選挙結果公示(学会ホームページ)

(注)代議員選挙の結果は、当選者を含めて全ての立候補者の氏名、都道府県名、勤務先名および得票数が公示されます。

4 支部選挙区分及び代議員選出定数

学会ホームページに掲載してありますので、ご参照ください。2012年10月12日(金)に掲載する予定です。

(ホームページは、トップページの「代議員選挙に関するお知らせ」バナーからアクセスしてください。

5 その他

この公示に関するお問い合わせは、日本神経学会事務局にお願いします。

電話の場合 03-3815-1080

メールの場合 ホームページの「お問い合わせ」から

第 54 回日本神経学会学術大会のお知らせ

第 54 回日本神経学会学術大会
大会長 水澤 英洋

開催概要

1. **学術大会会期**：平成 25 年（2013 年）5 月 29 日（水）～6 月 1 日（土）
「神経学—新しい時代への挑戦—」をテーマとして、上記日程で開催いたします。例年通り、1 日目に生涯教育セミナー（レクチャー、Hands-on）、卒後教育セミナーが開催されます。
2. **学術大会会場**：東京国際フォーラム
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-5-1
TEL：03-5221-9000（代）
3. **演題募集期間**：平成 24 年 10 月 10 日（水）～12 月 13 日（木）
※募集期間の延長はありませんのでご注意ください。
4. **シンポジウムの公募**：シンポジウムの公募は 9 月以降 HP にてご案内いたします。
5. **事前参加登録**：平成 25 年 1 月 10 日（木）～4 月 25 日（木）
※事前参加登録はすべてオンラインにより登録を行います。
※ランチョンセミナー、イブニングセミナーもオンラインによる事前登録制とする予定です。
※詳細は追ってホームページでご案内いたします。（<http://www.congre.co.jp/neuro54/>）
6. **参加費**：事前参加登録費：15,000 円（当日 18,000 円）
学部学生、初期研修医は参加費無料となります。詳細は、ホームページでご案内いたします。
7. **託児所**：会期中、会場内に託児所をご用意いたします。お申し込み方法等につきましては、追ってホームページでご案内いたします。
8. **エクスカーション**：会期中エクスカーションを企画しております。お申し込み方法等につきましては、追ってホームページでご案内いたします。
9. **お問い合わせ**：
【学術大会本部】
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野
〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
TEL：03-5803-5234 FAX：03-5803-0169
【学術大会運営事務局】
株式会社コングレ
〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 6 階
TEL：03-5216-5318 FAX：03-5216-5552
E-mail：neuro54@congre.co.jp

一般演題申込み要項

口演発表とポスター発表を予定しております。

1. **申し込み**：申し込みはすべてオンラインにて受け付けます。
2. **演題募集期間**：平成 24 年 10 月 10 日（水）～12 月 13 日（木）
※募集期間の延長はありませんのでご注意ください。
3. **演題要旨作成時の注意**
 - (1) 演題の制限：1 演者につき 1 題にします。ただし、共同演者になることは差し支えありません。一施設から多数の申し込みも歓迎いたします。
 - (2) ご登録いただく項目
 - ・発表形式区分：（口演もしくはポスターより選択）
 - ・筆頭演者氏名：（姓・名の順でご記入ください）

- ・筆頭演者電子メールアドレス
 - ・演題名：全角で40字以内
 - ・発表者：筆頭演者と異なる場合のみお書きください。
 - ・演者・共同演者氏名：ふりがなおよび所属機関（10文字程度）
※総演者数は21名以内となります。
 - ・演題抄録：【目的】、【方法】、【結果】、【結論】に分けて簡潔に記入してください。その都度改行する必要はありません。
 - ・日本語または英語に限ります。抄録本文の文字数は全角800文字以内といたします。英数字は半角とします。
 - ・抄録内容が不完全な場合（誤字、脱字、具体的な数値の不足、【目的】、【方法】、【結果】、【結論】に項目立てされていないなど）、不採用になりますので抄録作成の際に最新の注意を払ってご投稿ください。
- (3) 筆頭演者は本学会の会員である必要があり、登録時に会員番号を入力していただきます。皆様の会員番号は郵送された臨床神経学会誌の宛名ラベルに記されています。未入会者は登録前に日本神経学会事務局（〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-21 一丸ビル 03-3815-1080）へご連絡の上、入会手続きをお取りください。
- (4) 演題の査読を行いますので、抄録本文の中で、所属機関が明らかになるような記述は避けてください。
- (5) 患者の個人情報に抵触する可能性のある内容は、患者あるいはその代理人からインフォームド・コンセントを得た上で、個人が特定できないよう十分留意して発表してください。個人が特定される恐れのある情報を含む発表は禁止します。
- (6) 第54回日本神経学会学術大会 最優秀口演賞、第54回日本神経学会学術大会 最優秀ポスター賞を設けます。抄録登録時に応募を受け付けます。応募資格は、登録時、学部卒業後15年未満とします。
- (7) 抄録が採択された場合、事務局からの修正依頼はありません。登録された抄録をそのまま「臨床神経学」53巻12号（電子版）に掲載いたします。また学術大会終了後の修正も承りませんので注意深く抄録をご準備ください。

4. 利益相反の開示について

産学連携による臨床研究の適正な推進を図り、科学性・倫理性を担保に遂行された臨床研究成果の発表における中立性と透明性を確保するため、すべての発表者に「利益相反（Conflict of Interest, COIと略す）」の開示を求めることになっております。

演題登録画面の「利益相反」の入力欄にて「あり」「なし」をご選択ください。「あり」の場合、演題登録後に日本神経学会WEBサイトの所定ページより「COI自己申告書様式」をダウンロードいただき、ご記入の上、書留にて下記まで送付してください。

<送付先>

第54回日本神経学会学術大会 運営事務局 COI担当行き
株式会社コングレ
〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル6階
TEL：03-5216-5318 FAX：03-5216-5552

なお、利益相反について、専門的な内容に関するご質問は学会事務局までお問合せください。

<日本神経学会事務局>

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-21 一丸ビル
TEL：03-3815-1080 FAX：03-3815-1931

5. 口演による発表方法

- (1) PCプロジェクターが使用可能です。
- (2) ビデオプロジェクターの使用はできませんが、PCからの動画投影は可能です。
- (3) 発表データはメディア（USBメモリーまたはCD-R）での持ち込みとなります。ただし動画がある場合にはご自身のPCをご持参ください。
- (4) 研究倫理諸規定および個人情報保護の諸規定に遵守してご発表ください。
- (5) 利益相反の開示についてのスライドをご提示いただきます。詳しくは日本神経学会ホームページの「学会概要」内、「定款・規則」をご参照ください。
- (6) 学術大会の国際化のため、口演スライドはできるだけ英語で作成するようお願いいたします。

6. ポスター形式による発表方法

- (1) 展示パネルは縦 210cm×横 90cm の予定です。パネル上部の演題番号のみ、学術大会事務局で用意いたします。演題・所属・氏名（簡単に）は各自で 20cm×70cm に横書きしてください。
- (2) ポスターは要旨・目的・方法・結果・考察の順に大きくわかりやすく書いてください。文章は 2~3m 離れたところからでも見えるような大きなポイント文字を使い、図式は一辺が 20cm 以上の大きさとタイトル・簡単な説明をつけてください。
- (3) パネル自体に直接文字や図表を書いたり、パネルに糊づけしたりはできません。
- (4) ポスターをパネルに貼りつけるための画鋏は会場に用意いたします。
- (5) ポスター発表のスケジュール等は演題採用通知を発表後にご案内させていただきます。
- (6) 研究倫理規定および個人情報保護の諸規定を順守してご発表ください。
- (7) 利益相反の開示についての内容を記載してください。詳しくは日本神経学会のホームページ「学会概要」内、「定款・規則」をご参照ください。
- (8) 学術大会の国際化のため、ポスターはできるだけ英語で作成するようお願いいたします。

7. 日本神経学会 学術大会運営委員 (50 音順・敬称略)

梶 龍児 吉良 潤一 鈴木 則宏 祖父江 元 辻 省次
西澤 正豊 水澤 英洋 山本 光利

8. 第 54 回日本神経学会学術大会 年次学術大会学術委員 (50 音順・敬称略)

青木 正志 赤松 直樹 荒木 信夫 飯塚 高浩 五十嵐博中
池田 昭夫 石合 純夫 石川 欽也 伊東 大介 井上 治久
宇川 義一 内原 俊記 大八木保政 荻野美恵子 小野寺 理
勝野 雅央 亀井 聡 河村 満 神田 隆 楠 進
國本 雅也 桑原 聡 幸原 伸夫 後藤 順 榊原 隆次
佐古田三郎 清水 潤 清水 優子 下濱 俊 園生 雅弘
高橋 一司 武田 篤 武田 克彦 棚橋 紀夫 玉岡 晃
戸田 達史 富本 秀和 永井 博子 中川 正法 中瀬 浩史
西野 一三 西山 和利 野元 正弘 服部 信孝 林 明人
平田 幸一 福永 秀敏 福山 秀直 藤原 一男 松浦 徹
松尾 秀徳 松本 昌泰 村山 繁雄 望月 秀樹 本村 政勝
山田 正仁 山村 隆 山脇 正永 横田 隆徳

各種企画のお知らせ

1. 大会長講演

水澤 英洋（東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野）

2. 特別講演：2012 年学会賞・榊林賞受賞者招待講演

2012 年学会賞：岩田 淳（東京大学大学院医学系研究科分子脳病態科学）

2012 年榊林賞：武田 篤（東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野）

3. 教育講演，全日神経内科教育コース，チーム医療関連コース（予定）

4. ホットトピックス（診療ガイドライン，先端研究：予定）

5. Neuroscience frontier symposium, AAN-JSN joint symposium（予定）

6. East Asian Neurology Forum 関連プログラム（予定）

7. 企画シンポジウム（予定）

- 1) 病態仮説に基づくアルツハイマー病治療法開発の現状と展望
- 2) 血管性認知症と周辺病態：Vascular cognitive impairment (VCI) をめぐって
- 3) 神経心理学の進歩：たいせつなことをわかりやすく
- 4) 心房細動に伴う心原性脳塞栓症の予防
- 5) 脳梗塞急性期治療の最前線
- 6) てんかん診療における焦点検索方法の進歩とてんかん外科（日本てんかん学会との共催）
- 7) 群発頭痛の病態解明と治療
- 8) 難治性慢性片頭痛の病態解明と治療

- 9) Recent progress in multiple system atrophy
 - 10) パーキンソン病の初期診断
 - 11) パーキンソン病の非薬物療法とエビデンス
 - 12) Non-coding repeat expansion disorders
 - 13) 不随意運動の病態生理
 - 14) 中枢神経系感染症の遺伝子診断の進歩
 - 15) Pathogenesis and treatment of NMO
 - 16) MG 治療の現状を知り、 今後を考える
 - 17) GBS/CIDP をめぐる最新の話
 - 18) 免疫性神経疾患の新しい展開：脳から自律神経障害まで
 - 19) 運動ニューロン疾患の遺伝学：update
 - 20) 末梢神経の再生医学：難治性末梢神経疾患治療の新たな水平線
 - 21) 筋疾患研究最前線
 - 22) パーキンソン病 (PD) の自律神経障害～全身とのクロストーク
 - 23) 神経筋疾患の核酸医薬による遺伝子治療
 - 24) 神経再生医療とリハビリテーション
 - 25) 脳卒中のリハビリ：回復期 6 か月の壁をこわす新しい治療戦略
 - 26) iPS 細胞研究の現状と展望
 - 27) 神経疾患における MR 撮像法の最先端
 - 28) 神経筋疾患の超音波診断
 - 29) Structural template for neurodegeneration. From lesion to brain
 - 30) Missing heritability
 - 31) 今後の難病医療
 - 32) 神経内科教育の Continuum
 - 33) 利益相反の各大学での取り組み
 - 34) 今後の医療を支えるために～女性医師のキャリアを持続させるためには？～
 - 35) 救急場面における神経内科医のプレゼンス（日本神経救急学会との共催）
 - 36) より良い在宅医療をめざして
 - 37) 日本神経学会編纂診療ガイドラインの現況と将来展望
8. 公募シンポジウム（予定）
 9. 脳梗塞 rt-PA 適正使用講習会（予定）
 10. 日本神経学会第 10 回生涯教育セミナー「レクチャー」（6 月 1 日（土））
 11. 日本神経学会第 10 回生涯教育セミナー「Hands-on」（5 月 29 日（水））
 12. 日本神経学会第 15 回卒後教育セミナー（5 月 29 日（水））
 13. 日本神経学会市民講座（6 月 2 日（日））

編集後記

ロンドンオリンピックが格闘技系日本人女子の活躍を印象付けて終了しました。祭りの後の世界中は次第に元のペースを取り戻しつつあると思われませんが、ちっとも上向かない景気どころか新しい大恐慌の影におびえる世界の状況かとも思われます。そんな中で今年最大の明るいニュースは何と言ってもヒッグス粒子の発見ではないでしょうか。このニュースが報道されてもヒッグス粒子の本体については私自身未だ良く理解できませんが、解説記事で驚いたのはこの宇宙を構成しているのは「暗黒エネルギー」と呼ばれるものが73%を占めていて、次いで「暗黒物質」が23%、残りの4%のみが私たちが計測出来る星や銀河、ニュートリノ、反物質、ヒッグス粒子などのいわゆる「物質」であるということでした。

137億年前にビッグバンで宇宙が誕生してから長い年月を経て、この地球が誕生したのが60億年前。当初還元的大気であった地球上にやがて原子生命体が誕生し、30億年前には植物の誕生とともに酸素が発生して大気・大地・海の酸化が進み、原始生命体の死滅など酸素毒性は地球規模での環境問題でした。しかしやがて酸素利用生物の出現から動物誕生へと進化は進んでいくわけです。一体この宇宙あるいは地球上に何時から神経や脳というものが出てきたの

でしょうか？500万年前に発生した原人は既にかなり高度の脳活動を行っていたはずですし、20万年前に出現したホモサピエンスになるとほぼ現在の人類と同程度の基本脳機能は持っていたのでしょう。酸素毒性の問題は今日でも私達小宇宙のなかで例えば脳卒中やALS、パーキンソン病、アルツハイマー病などと深く関連していると考えられています。

それにしても私たちの脳はこの宇宙に比べるととてつもなく小さなものですが、それでもとても大きな事が出来る素晴らしいものだとも思われます。何となく脳の不思議さに惹かれて神経内科を専攻してきた私たちの世代も、いま脳に興味があつて神経内科を志そうとしている若い方々にとっても、遠い昔にアフリカ大陸を出て新天地を目指したあの日の記憶は何処かに残っている気がしないでしょうか。ヒッグス粒子が測定可能になってきたようですので、やがてヒッグス粒子と脳神経疾患との関連についても誰かが研究を始める時代が来るのではないかと思っています。あるいはまたもしかしたら本誌臨床神経学に遠い宇宙からの投稿が来る日もあるかもしれません。夏の夜は様々な変な考えが浮かんでは消えることがあります。

(阿部康二)

〈編集委員〉

編集委員長 中野 今治 編集副委員長 阿部 康二 鈴木 則宏
 編集委員 神田 隆 木村 和美 桑原 聡 瀧山 嘉久 野村 恭一 森 悦朗
 編集委員 (幹事兼任) 清水 潤 森 秀生 吉井 文均

〔臨床神経学〕 第52巻 第10号 平成24年10月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 水澤 英洋
 印刷所 〔郵便番号 114-0024〕 東京都北区西ヶ原三丁目46番10号 株式会社 杏林舎

発行所 〔郵便番号 113-0034〕 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル

日本神経学会

郵便振替口座 東京00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/index.html>